

二極化「積極派」「消極派」が進むシニアの日々の生活

～スマホ所有率が続伸する中、「消極派」だけは伸びていない現状～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果 1 : シニアの日々の活動

調査結果 2 : シニアの日々の活動結果を元にしたグループ分け

調査結果 3 : シニアの日々の活動グループとスマホ所有

■ 調査結果

1— 社会活動は4割弱、教室活動は3割弱、人との交流は6割強

レポート15にて、スマートフォンの所有率が伸びていると報告したが、ライフスタイルと照らし合わせると、どのような特徴があるシニアが伸びているのか、分析し、報告する。

まず、シニアのライフスタイルの中で、基本となる「日々の活動」についてみる。モバイル社会研究所では、2015年の調査開始時より、6つの項目でシニアの日々の活動を見ている（表1）。

表1 シニアの日々の活動 活動・交流をしている人の割合（単集計）

分類	社会活動		カルチャースクールでの活動		人との交流	
	調査項目	地域活動（自治会・老人会・町内会）	39.8%	教養・芸術・手芸等の教室活動	20.0%	仲間・家族との交流
奉仕、ボランティア活動		21.8%	体を動かす教室活動	26.7%	家族・親族との交流	63.5%

2— シニアの日々の活動は「積極派」と「消極派」が増える

この結果を2015年から2018年を比較すると（図1）、項目により多少の変化はあるが、大きくは変わっていない。本当にシニアの日々の生活は変化していないか。検証するために、当回答傾向を元に、シニアをグループ分けした。その結果、図2の通り、5つのグループに分けることができた。様々な活動に積極的に参加しているグループから、消極的なグループまで存在することが明らかとなる。

そのグループの構成比を経年でみると、図3の通り、「積極派」や「教室でいきいき」のようなアクティブなシニアが増えた一方、「消極派」も増えている。

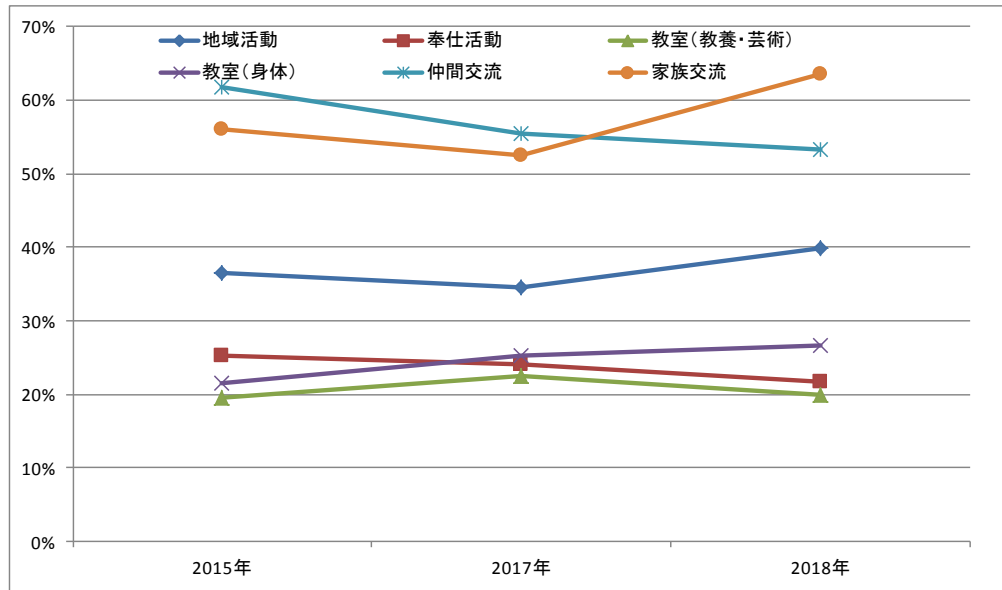
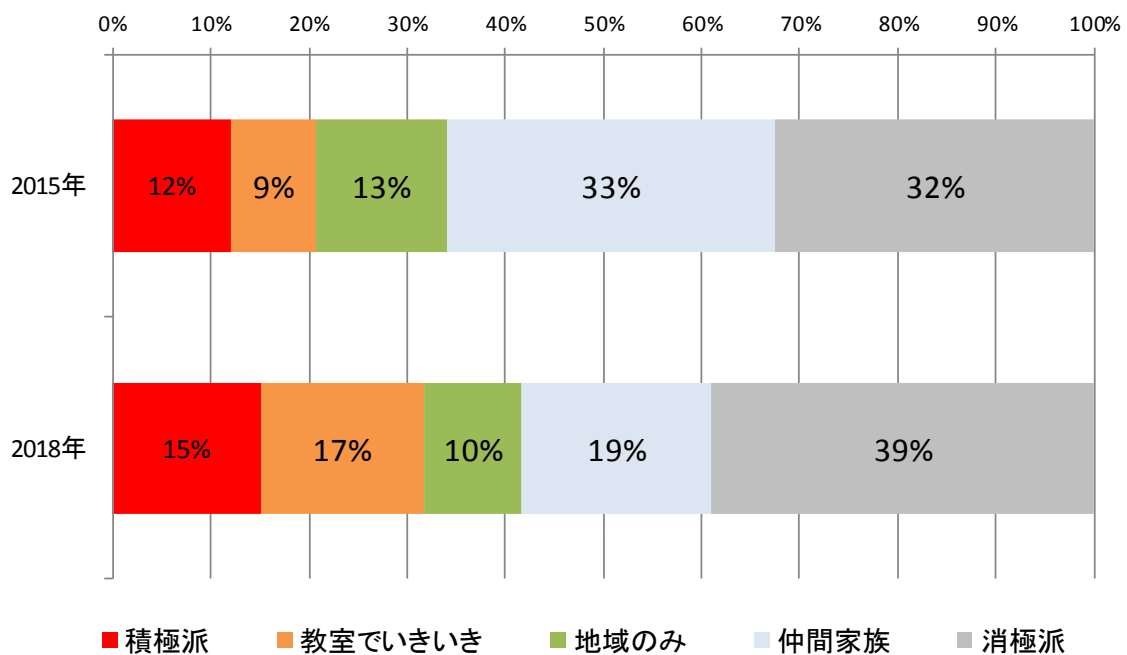


図1 日々の活動の経年変化

	積極派	教室でいきいき	地域のみ	仲間家族	消極派
社会活動	○	×	○	×	×
教室活動	○	○	×	×	×
人との交流	○	○	×	○	×

○・・・活動、交流をおこなっている ×・・・活動、交流をおこなっていない

図2 日々の活動グループの特性



■ 積極派 ■ 教室でいきいき ■ 地域のみ ■ 仲間家族 ■ 消極派

図3 日々の活動グループ別（経年変化）

3— 「消極派」のみスマホ所有が伸び悩む、他のグループは20pt以上伸びる

最後にこの日々の活動グループとスマホ所有を合わせてみる。2015年現在、日々の活動と、スマホの所有については、あまり大きな差異は生まれていなかった。2018年と比較すると大きく変化した。「消極派」のみがほとんど所有は変わっておらず、他のグループは20pt以上伸びた。

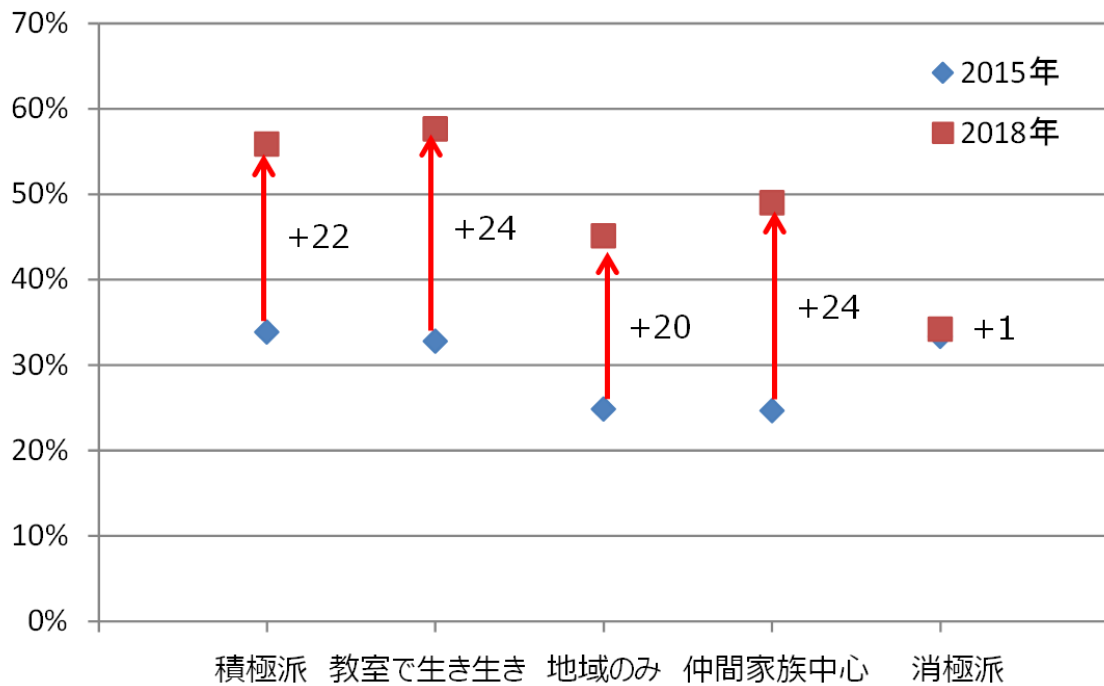


図4 シニアの日々の活動グループとスマホの所有率

今回の分析により、シニアのライフスタイルとスマホの所有状況に差が生まれ始めていることが確認できた。

「消極派」は、将来社会的孤立を招く可能性がある。それでは、ICTが人との繋がりに何かしらの効力が発揮できないか、次のレポートで検証してみる。

■調査概要（調査名 シニア調査 訪問留置調査）

調査時期 : 2018年1月 調査対象 : 関東1都6県、60～79歳男女
標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・都市規模で割付 510 サンプル回収

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com 03-5156-1087